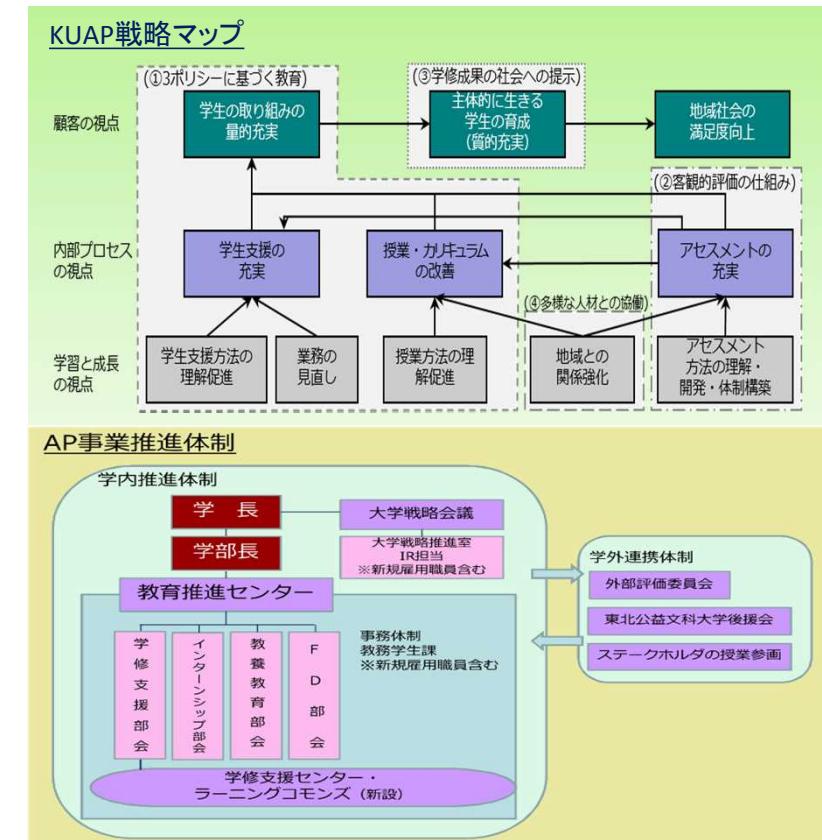
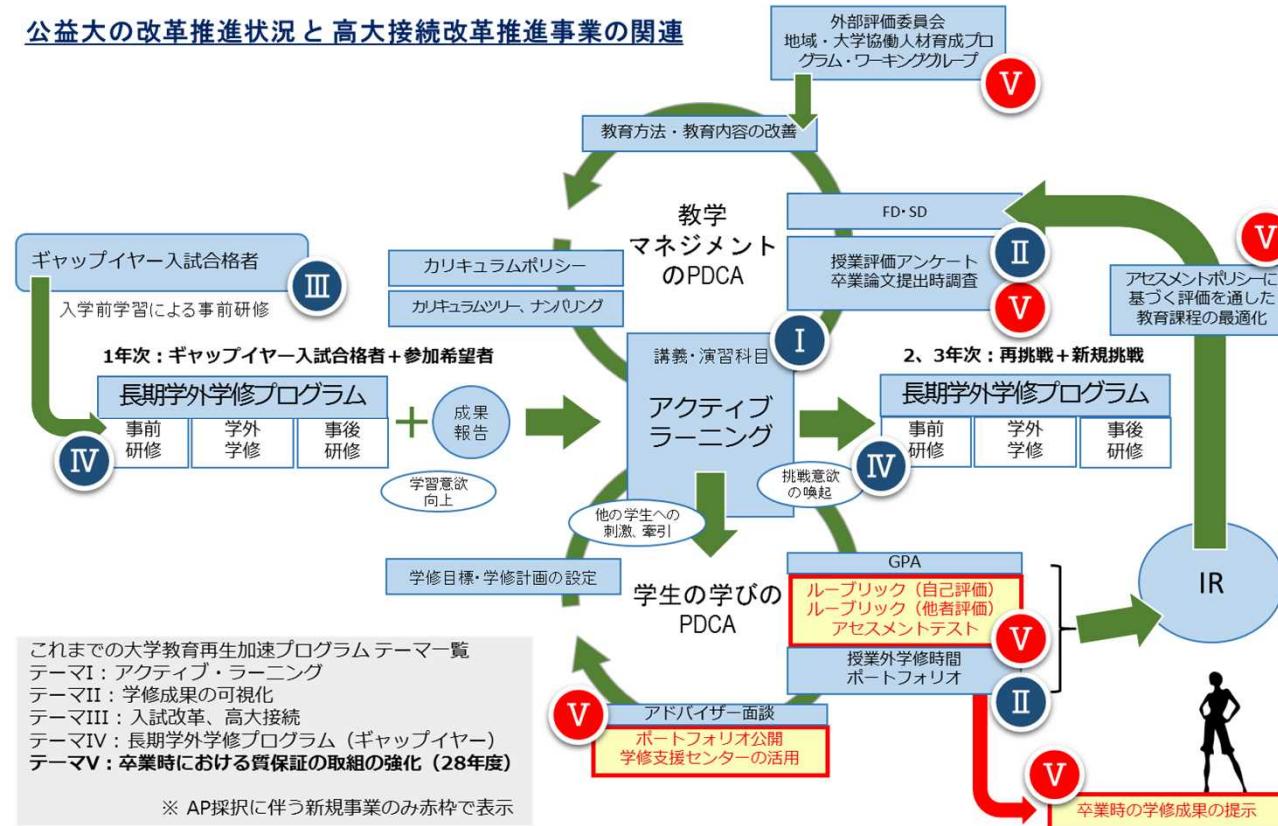


大学等名：東北公益文科大学

## 取組概要

- ・**コーチング法**を用いたアドバイザ一面談に加え、身近なモデルを提供する**ミラーリング法**の導入により、学生自身の振り返りや目標設定を充実させる
  - ・**学修支援センター・ラーニングコモンズ**を新設し、成績が振るわない学生の学修機会や意欲の高い学生が共に学びあう機会を提供する
  - ・導入済みのアセスメントツールと新規に導入するアセスメントツールを有機的に関連づけ、学修成果を客観的に評価・可視化する
  - ・学修目標や学修状況、アセスメント結果、振り返り等を蓄積し、**目に見える形で社会に発信可能なポートフォリオ**を新規に開発し、在学中に活用することで学生の質的充実を図る
  - ・**ステークホルダ**と緊密に連携し、育成すべき人材像を明確にすると共に人材育成の評価方法の開発や評価の実施を共同で行う

## 公益大の改革推進状況と高大接続改革推進事業の関連



【事業の成果】	27年度 (実績値)	28年度 (目標値)	29年度 (目標値)	31年度 (目標値)
学生の授業外学修時間（1週間当たり）	10時間	12時間	15時間	20時間
卒業生追跡調査の実施率（調査回答者数／卒業者数）	—	10.0%	15.1%	25.3%
進路決定の割合（正規雇用・進学者数／卒業者数）	94.5%	95.9%	96.5%	98.4%

## ★期待される取り組みの効果★

- 1) 自身の成長実感が加速し学修の主体性が向上する（学生）
  - 2) 授業外学修時間が増える（学生）
  - 3) GPAが向上する（学生）
  - 4) 大学教育満足度があがる（学生）
  - 5) 学位プログラムが最適化される（大学）
  - 6) 進路決定率が向上し就職先企業の満足度が上がる（社会）